

応用行動分析学に基づく パーキンソン病患者の基本動作練習

緩徐に進行する**パーキンソン病患者**に対し、動作障害の原因を無動や固縮、姿勢反射障害など、病気や機能障害に見出し、それらを改善させようと考えても、**動作能力の回復は見込めません**。応用行動分析学の観点からは、知識や技術、動機づけに対する介入を行う治療戦略によって、動作を再学習させていきます。本研修では、その**原動力**となる、**成功体験**の得られる**動作練習**についてご紹介します。

2025年3月1日(土) 10:00～11:30

中山 智晴先生

須崎くろしお病院 理学療法士

